災害地形速報

能登半島基部における豪雨災害リスク

羽咋市・宝達志水町・氷見市を一体の地形系として読む

2026 年 8 月 27 日　速報整理

結論　この地域の本質的な危険は、宝達丘陵に降った雨が日本海側と富山湾側の短い河川へ同時に集中し、山地の土砂災害、扇状地・谷出口の急流、海岸低地の河川氾濫と内水氾濫、道路冠水による孤立が連鎖する点にある。

1　今回確認されている事実

- 羽咋市付近では、8 月 27 日 5 時 20 分までの 1 時間に約 100mm の猛烈な雨が降ったと解析された。
- 羽咋市、宝達志水町、氷見市を含む地域に大雨特別警報が発表された。宝達志水町は町内全域、羽咋市は一部地区に避難指示を発令した。
- 氷見市の上庄川・泉大橋観測所では氾濫危険水位に到達し、国道 160 号上泉交差点付近では道路冠水が確認された。
- 6 時 30 分のキキクルでは、能登半島基部の谷筋と低地に高い危険度が広域に分布している。

※被害の全容は調査中であり、本稿は同日朝までの公表資料と画像に基づく速報評価である。

2　地形が危険を増幅する仕組み

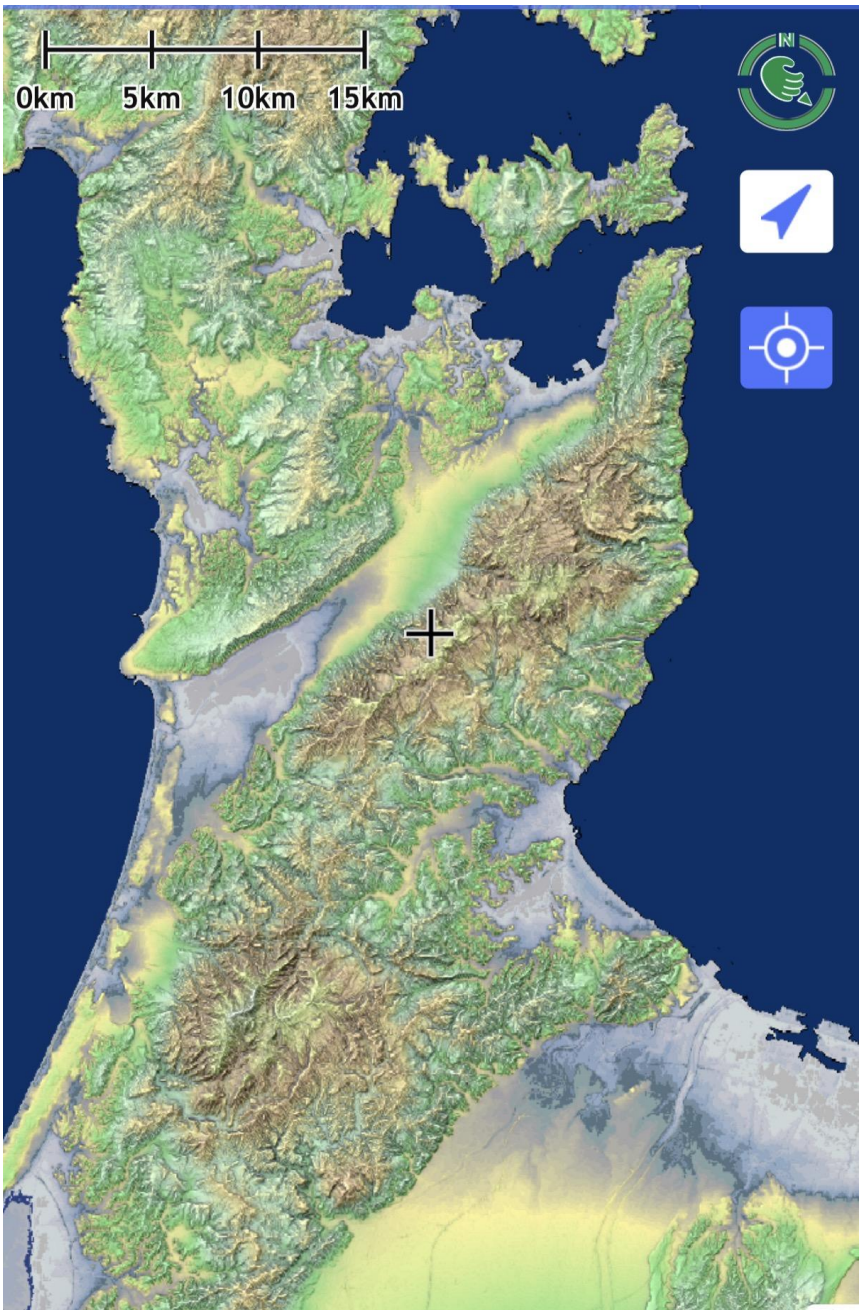

図 1　能登半島基部の地形。中央の宝達丘陵を境に、西は羽咋・宝達志水の日本海側低地、東は氷見平野へ水が流れ下る。画像提供：原口 強氏。地形画像は標高段彩・陰影表現。

宝達丘陵が「両側への集水塔」になる

宝達志水町東部には標高 637m の宝達山を含む丘陵地があり、西側には子浦川、長者川、相見川、宝達川、前田川などが短い距離で日本海へ流れる。東側では上庄川、仏生寺川、余川川などが氷見平野へ流下する。線状降水帯が丘陵を覆うと、一つの雨域が分水界の両側で同時に洪水・土砂災害を引き起こし得る。

低地は「水の出口が限られた受け皿」になる

羽咋市は海岸砂丘と、その背後から北東へ延びる邑知潟低地の出口に位置する。氷見側にも潟埋積平野や谷底低地が発達する。周囲から水が集まる一方、河川・水路・樋門・排水機場など出口の能力には上限があるため、短時間強雨では河川氾濫の前から内水氾濫が始まり、降雨後も浸水が残りやすい。

3　想定すべき五つの連鎖

地形区分	主要な危険	災害の進み方
1 山地	表層崩壊・土石流	飽和した斜面や谷頭が崩れ、流木・土砂が谷へ集中する。
2 谷出口	急激な増水・河岸侵食	短く勾配のある河川で洪水到達が早く、橋や狭窄部で流れがせき上がる。
3 低地	外水＋内水氾濫	川の水位上昇で排水できず、道路・宅地・農地に水がたまる。
4 交通	冠水・孤立	水深約 30cm でも車両停止の危険があり、避難路そのものが失われる。
5 複合化	地震被害との重なり	地震で損傷・沈下した斜面、堤防、水路、道路では局所的に弱点が残る可能性がある。

4　6 時 30 分の危険度分布が示すこと

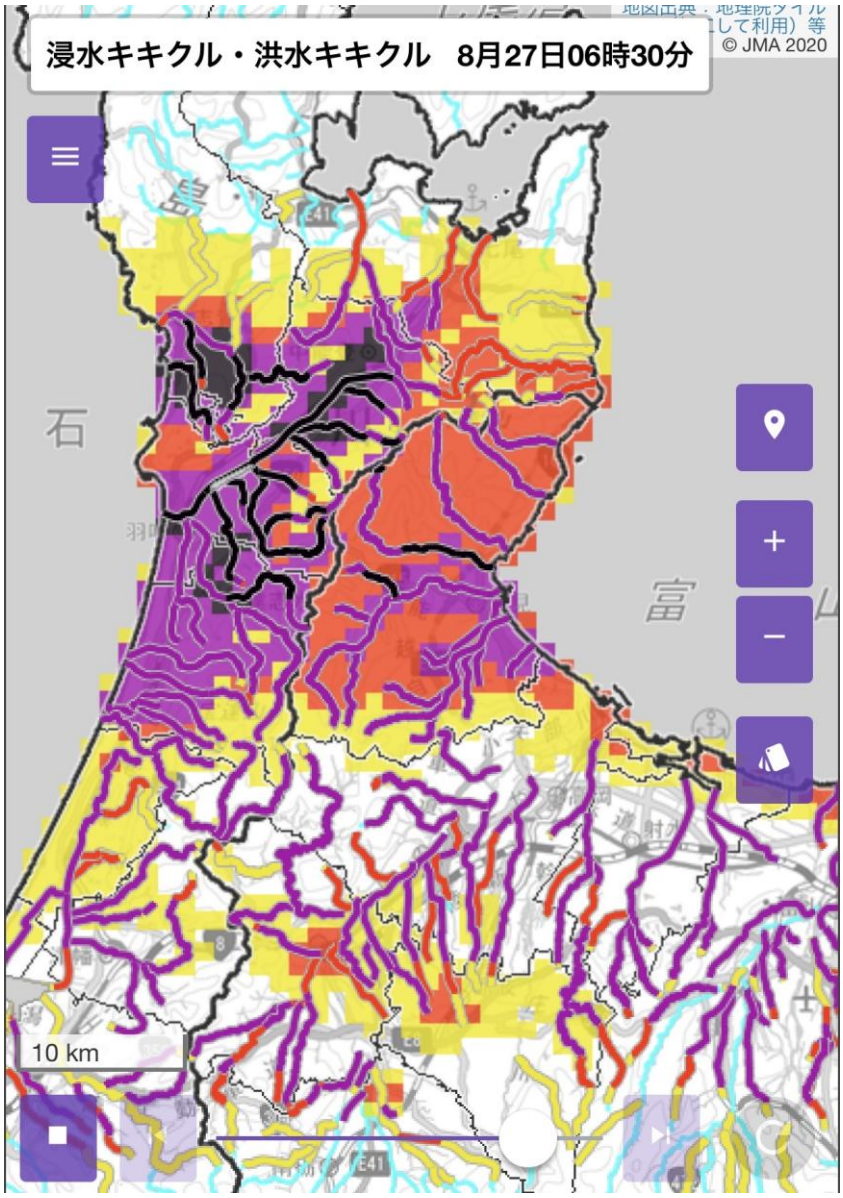

図 2　浸水キキクル・洪水キキクル（2026 年 8 月 27 日 6 時 30 分）。能登半島基部の低地と多数の谷筋で危険度が高まっている。

出典：気象庁キキクル画面（添付画像）。背景地図：地理院タイル等。

読み取り上の注意　キキクルは観測・解析雨量等から災害危険度を面的に示す速報情報であり、個々の家屋の浸水や河川決壊を直接確認した図ではない。ただし、高危険度が谷筋・低地に連続することは、複数流域で災害が同時進行する可能性を示す。

5　地域別の危険

羽咋市：邑知潟低地の出口で水が集中する

羽咋川などの河川氾濫に加え、砂丘背後の低地で排水が追いつかない内水氾濫が重要である。約 100mm/h 級の雨では、水路・側溝・道路排水を超える可能性が高く、道路と宅地が一体的に冠水し、浸水が長引くおそれがある。

宝達志水町：山から海までが短く、危険の展開が速い

宝達山から流れる複数の小河川では、上流の土砂・流木、中流の急流、扇状地の氾濫、海岸低地の排水不良が短時間で連鎖する。町の水害ハザードマップが 13 河川、ため池、土砂災害を対象としていることは、危険源が多数あることを示す。

氷見市：丘陵から平野・市街地へ流れが集まる

市域の約 8 割を丘陵が占め、平地と市街地は河川下流に集中する。上流の斜面災害、中流の急増水、下流の河川氾濫・内水氾濫が重なりやすい。上庄川の氾濫危険水位到達と国道 160 号の冠水は、この構造が現実化していることを示す。

6　避難・調査上の要点

- 冠水道路へ車で進入しない。水深約 30cm でも吸気・電装系の障害や浮力により走行不能となり得る。
- 「川から離れる」だけでなく、谷出口、斜面直下、低地、橋・アンダーパスを同時に避ける。
- 雨が弱まっても、上流からの流出と河川水位上昇は遅れて続く。斜面崩壊も降雨後に発生し得る。
- 被災調査では、浸水痕跡、流木・土砂、河岸侵食、道路冠水、排水施設の作動状況を時刻情報とともに記録する。

総括　今回は「一つの川の洪水」ではなく、宝達丘陵を核として、両側の多数の流域で山地災害・洪水・内水・交通障害が重なる広域複合災害として捉える必要がある。

主な根拠資料

- 気象庁：警報・注意報、浸水キキクル・洪水キキクル（2026 年 8 月 27 日）
- 国土地理院：北陸 4 県の地理と地形（邑知潟平野の 5m メッシュ標高鳥瞰図）
- 富山県・氷見市：洪水浸水想定区域図、氷見市洪水・土砂災害ハザードマップ
- 石川県・羽咋市・宝達志水町：洪水避難地図、水害ハザードマップ
- 宝達志水町：町の概要（宝達丘陵、扇状地、海岸砂丘）
- 国土交通省・富山県：上庄川水位、国道 160 号道路冠水情報
- 邑知潟土地改良区：2024 年能登半島地震に伴う堤防沈下の記録